



特別展示

# Adam Smith in action

アダム・スミスの思想形成過程  
と  
その東アジアへの波及

## 目次

ごあいさつ	1
(1) 18世紀知識人スミスの書棚から	2
(2) 海を渡ったスミス	8
(3) スミスが生きた時代：ホガースのまなざし	11
展示資料一覧	16

## 凡例

- ・ 本図録は、平成30(2018)年6月2日(土)に、東京大学本郷キャンパス内経済学研究科学術交流棟(小島ホール)1階・第1セミナー室において開催の特別展示「Adam Smith in action: アダム・スミスの思想形成過程とその東アジアへの波及」の展示図録である。
- ・ 出品資料の選択は、経済学部資料室において、小島浩之(講師)、森脇優紀(特任助教)、福田名津子(学術支援職員)が行った。
- ・ 図録の執筆は福田、小島、森脇(執筆順)で分担し、3名に加えて経済学部資料室教職員の校閲を経ている。「(1) 18世紀知識人スミスの書棚から」は福田と森脇が、「(2) 海を渡ったスミス」は福田と小島が、「(3) スミスが生きた時代：ホガースのまなざし」は森脇が担当した。
- ・ 図録本文では、資料名については原表記に従った。
- ・ 図録の写真は、竹内涼子(学術支援職員)が撮影した。
- ・ 本展示会の開催にあたり、東京大学文学部社会学研究室、有江大介(横浜国立大学名誉教授)・野原慎司(本研究科講師)各氏の協力を得た。
- ・ 本図録は、日本学術振興会科学研究費補助金「日本における洋式製本の普及と技術伝播に関する歴史的研究」(挑戦的萌芽研究、課題番号:16K12543、代表者:森脇優紀)の研究成果の一部である。

## 表紙写真

- ・ アダム・スミス肖像画
- ・ アダム・スミス文庫より、Hobbes, Thomas. *Leviathan, or the matter, forme, & power of a common-wealth ecclesiasticall and civill.*

## ごあいさつ

本日は東京大学経済学図書館・経済学部資料室主催の特別展示「"Adam Smith in action" : アダム・スミスの思想形成過程とその東アジアへの波及」にご来場いただきありがとうございます。

当館の「アダム・スミス文庫」は、今から98年前に新渡戸稲造が寄贈したものを基礎として、その後に寄贈・購入されたものを含め315冊からなる、アダム・スミスの旧蔵書のコレクションです。今回の展示ではアダム・スミスの思想形成過程とその東アジアへの波及に焦点をあて、スミス蔵書の中から、スミスの学問的な作業の具体的な様子がわかるいろいろな分野の書籍や、書入れの見られる書籍、主著『国富論』の最初期の和訳・中国語訳、スミスの生きた時代の社会のわかるホガースの版画などを一般公開します。

"Adam Smith in action"と名付けましたように、スミスの生きた姿や時代とともに、私どもの取り組む研究におけるアダム・スミスにかかわる具体的な作業の一端をもお見せしつつ、学術体系の中にいまも脈々と生き続けているスミスの思想と学知を感じていただければ幸いです。

最後になりましたが、展示にご協力いただいた東京大学文学部社会学研究室をはじめ、関係各位に御礼申し上げます。

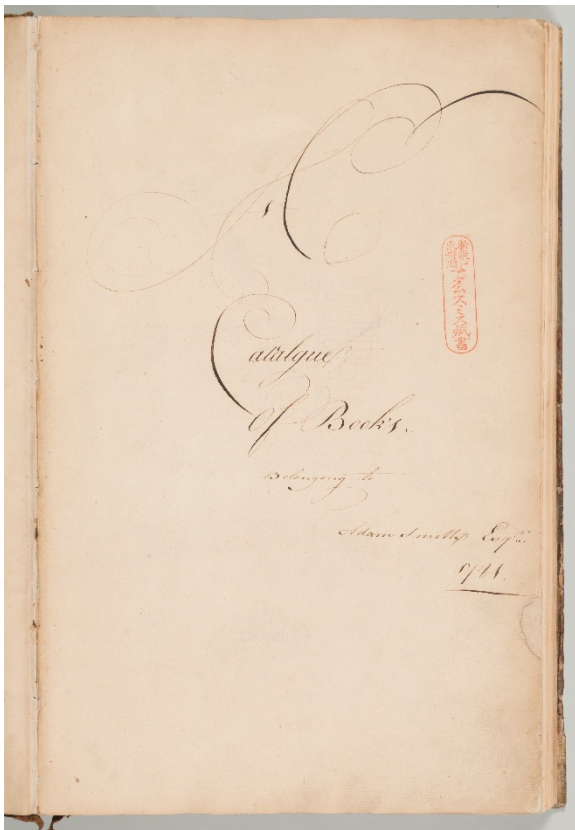
2018年6月2日  
東京大学経済学図書館  
館長 小野塚知二

## (1) 18世紀知識人スミスの書棚から

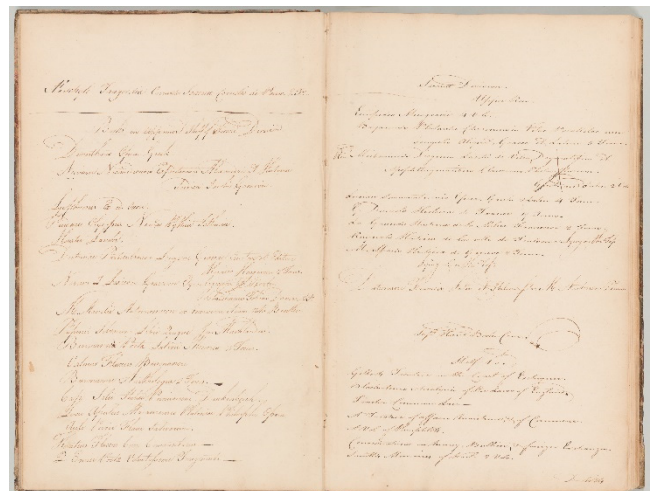
一般に「経済学の父」として知られるアダム・スミスは、グラスゴー大学道德哲学教授として活躍し、18世紀ヨーロッパに生きた代表的知識人のひとりであった。その豊かな知を育んだのは同時代人との交流であり、彼の書棚に集められた書物である。本章では、東京大学経済学図書館所蔵の「アダム・スミス文庫」より、スミスの知の体系をなした多彩なジャンルの書物を紹介する。

なお本館「アダム・スミス文庫」は、1920（大正9）年に新渡戸稲造が英国の古書店で購入したスミス旧蔵書 131部 303冊を経済学部独立の記念として寄贈したのが始まりで、同文庫は現在 315冊を数える。（福田）

### 1 Smith, Adam. *A catalogue of book's, belonging to Adam Smith Esqr... 1781.* [Sine loco], 1781. 【アダムスミス:121】



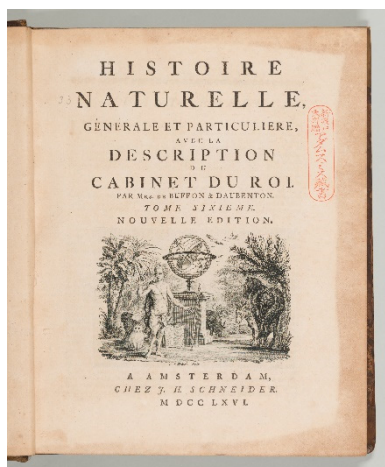
標題紙 (f. 1r.)



ff. 9v-10r.

スミス本人が書記に作らせたと伝わる蔵書目録。半革装・綴付け製本。書棚は7箇所に分けて配置され、各書物が棚の何段目に収められていたかという点まで記されている。同目録の前半部分に×印の訂正、後半には打消し線が数箇所見られるのは、本の移動を示している可能性がある。（福田）

2 Buffon, Georges Louis Leclerc, comte de & Louis-Jean-Marie Daubenton. *Histoire naturelle, générale et particulière, avec la description du Cabinet du Roi*, nouvelle édition, tome sixieme. Amsterdam, 1766. 【アダムスミス:17:6】



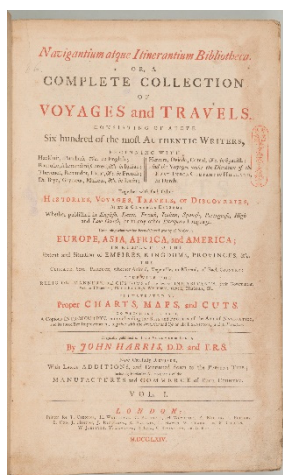
Title page



pl. XLIII, XLIV.

ジョルジュ・ビュフォン (Georges Buffon, 1707-88) の新版『博物誌』。総革装・綴付け製本。スミスが所有していたのは 21 巻分で、内訳は博物誌全般を論じた第 1~3 巻、四足獣を扱った第 4~15 巻、および補遺第 1~6 巻。展示品は第 6 巻「野生動物」からウサギ。同書は当時最大級のベスト・セラーとして知られる。(福田)

3 Harris, John & John Campbell. *Navigantium atque itinerantium bibliotheca. or, a complete collection of voyages and travels. consisting of above six hundred of the most authentic writers . . .*, vol. 1. London, 1764. 【アダムスミス:51】



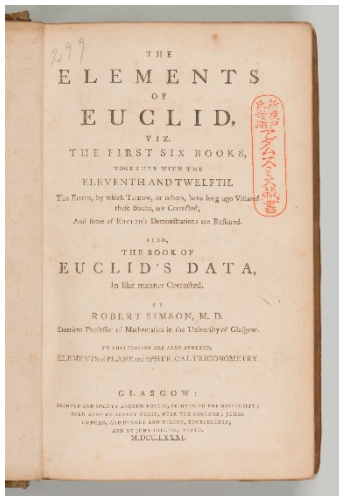
Title page



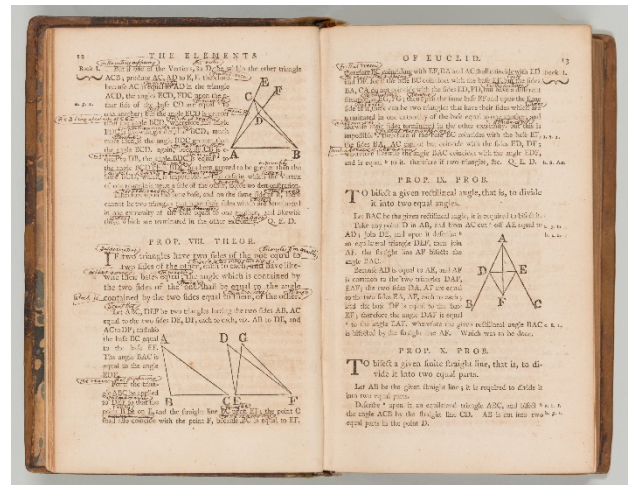
p. 359 (見開き) .

ジョン・ハリス (John Harris, 1667?-1719) らによる旅行記全 2 巻。総革装・綴付け製本。航海・旅行記は百科事典や博物誌と同じく、世界と自然に関する驚異的なほど多様な事実を、家にいながらにして知りつくすことのできる書物であった。いずれも観察的事実を記述するという方法で共通しているが、18 世紀ならではの誤解や逸脱もみられる。展示品は第 1 巻から「広州市街図」。(福田)

4 Euclid. *The elements of Euclid, viz. the first six books, together with the eleventh and twelfth...* Glasgow, 1781. 【アダムスミス:45】



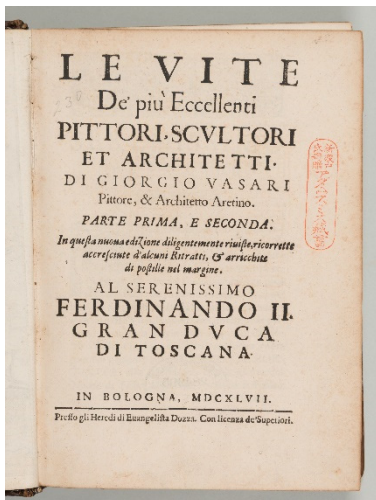
Title page.



pp. 12-13.

エウクレイデス (Euclid, 300 BC.?-) による幾何学書。総革装・綴付け製本。スミスが所有していたのは、グラスゴー大学数学教授を務めたロバート・シムスン (Robert Simson, 1687-1768) による訂正・編集版。文中には、理解を助けるような詳細な書入れが見られる。(福田)

5 Vasari, Giorgio. *Le vite de' più eccellenti pittori, scultori et architetti.* Bologna, 1647. 【アダムスミス:138】



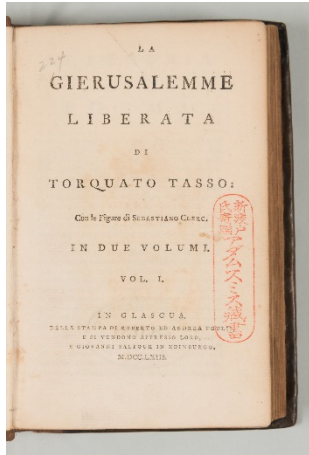
Title page



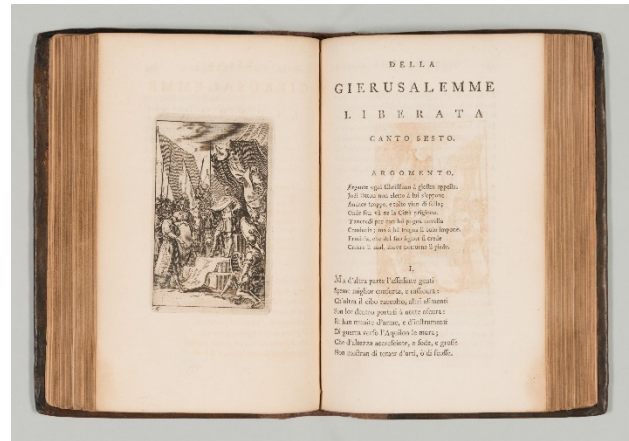
Parte terza, primo volume, p.7

イタリア人画家・建築家ジョルジョ・ヴァザーリ (Giorgio Vasari, 1511-74) の『美術家列伝』全3巻。総革装・綴付け製本。中世からルネサンスにおけるイタリアの芸術家たちの伝記が3部構成で記述されている。展示品は、第3部第1巻所収のレオナルド・ダ・ヴィンチ (Leonardo da Vinci, 1452-1519) の略伝の冒頭ページ。この「レオナルド・ダ・ヴィンチ伝」は、レオナルドの生涯とその作品に関する史料的高い伝記と評価されている。(森脇)

6 Tasso, Torquato. *La Gierusalemme liberata*. Glasgow, 1763. 【アダムスミス:133】



Title page



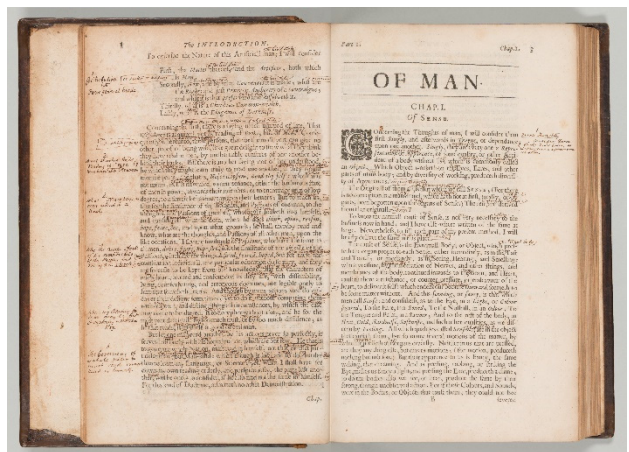
Canto Sesto

イタリア・バロック文学の詩人、トルクアート・タッソ (Torquato Tasso, 1544-95) の代表作『エルサレム解放』全2巻。総革装・綴付け製本。全20歌からなる長編の叙事詩で、イタリア文学の古典の中でも主要な作品として知られる。物語は中世の第一次十字軍を題材とし、キリスト教徒とイスラム教徒の騎士たちの壮絶な戦いと死、そして異教徒間の報われない男女の愛が描かれている。展示品は、第6歌の冒頭とその挿絵(銅版画)。(森脇)

7 Hobbes, Thomas. *Leviathan, or the matter, forme, & power of a common-wealth ecclesiasticall and civill*. London, 1651. 【アダムスミス:56】



Frontispiece

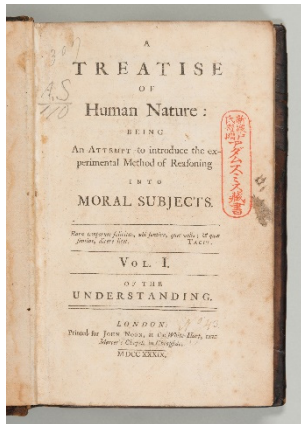


pp. 2-3.

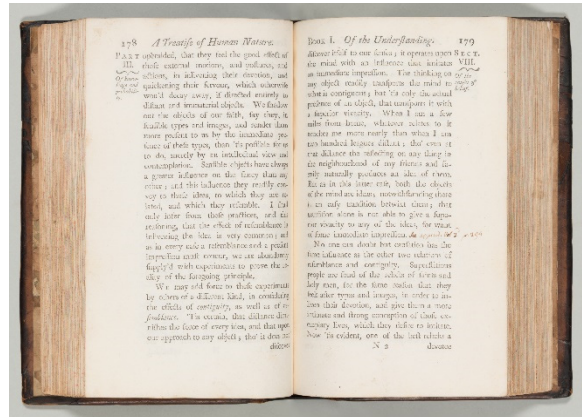
トマス・ホブズ (Thomas Hobbes, 1588-1679) による初版『リヴァイアサン』。総革装・綴付け製本。スミスが所有していたのは初出の真正版として知られるヘッド版で、冒頭部分に詳細な書入れが見られる。なお展示番号8は、東京大学文学部社会学研究室所蔵の同一版本。(福田)

9 Hume, David. *A treatise of human nature: being an attempt to introduce the experimental method of reasoning into moral subjects*, vol. 1. London, 1739.

【アダムスミス:63】



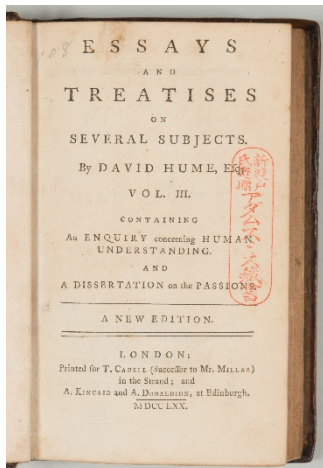
Title page



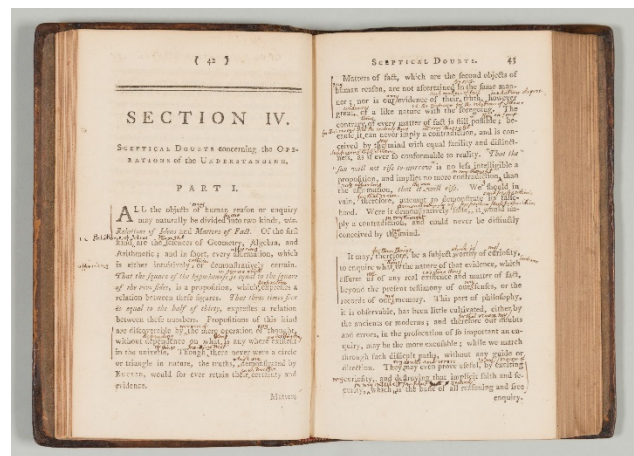
pp. 178-179.

デイヴィッド・ヒューム (David Hume, 1711-76) 『人間本性論』全3巻。総革装・綴付け製本。第1巻(展示品)は本館所蔵、第2および第3巻はエディンバラ大学に所蔵されている。(福田)

10 Hume, David. *Essays and treatises on several subjects*, new edition, vol. 3. London/Edinburgh, 1770. 【アダムスミス:60:3】



Title page



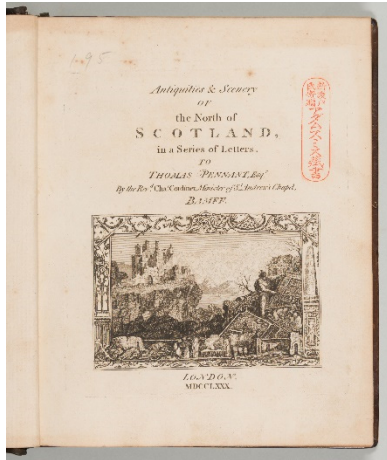
pp. 42-43.

デイヴィッド・ヒューム『道徳・政治・文学論集』全4巻。総革装・綴付け製本。スミスは1741年度版・1758年度版・1770年度版・1777年度版の4種を所有していた。本館所蔵の1770年度版(全4冊)のうち、書入れがあるのは第3巻「人間知性論」のみである。(福田)

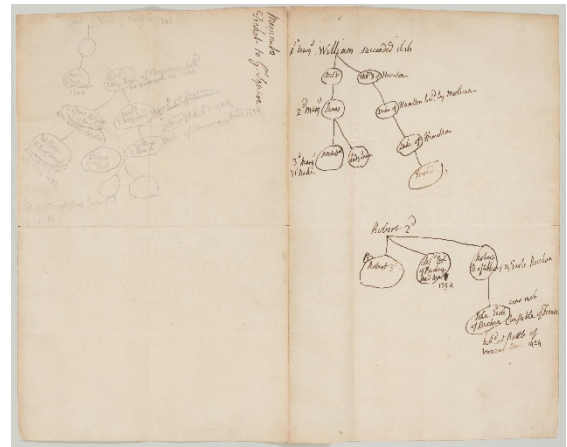


11 Cordiner, Charles & Þormóður Torfason (Thormodus Torfæus). *Antiquities & scenery of the north of Scotland, in a series of letters to Thomas Pennant, Esqr.* London, 1780.

【アダムスミス:38】



Title page



Verso of lower cover

チャールズ・コーディネ (Charles Cordiner, 1746?-94) 『北部スコットランドの遺物と風景』。総革装・綴付け製本。巻末の余白には家系図と見られる書入れがあり、左上に "Douglas"、右上に "Hamilton"、右下に "Buchan" の文字が確認できる。(福田)

【参考文献】

Mizuta, Hiroshi. *Adam Smith's library: a catalogue*. Oxford : Clarendon Press, 2000.

ジュリアーニ, アルフレード編、鷺平京子訳『タツソ エルサレム解放』岩波書店、2010年。

ヒューム著、田中敏弘訳『道徳・政治・文学論集』名古屋大学出版会、2011年。

森田義之ほか監修『ジョルジョ・ヴァザーリ 美術家列伝』第3巻、中央公論美術出版、2015年。

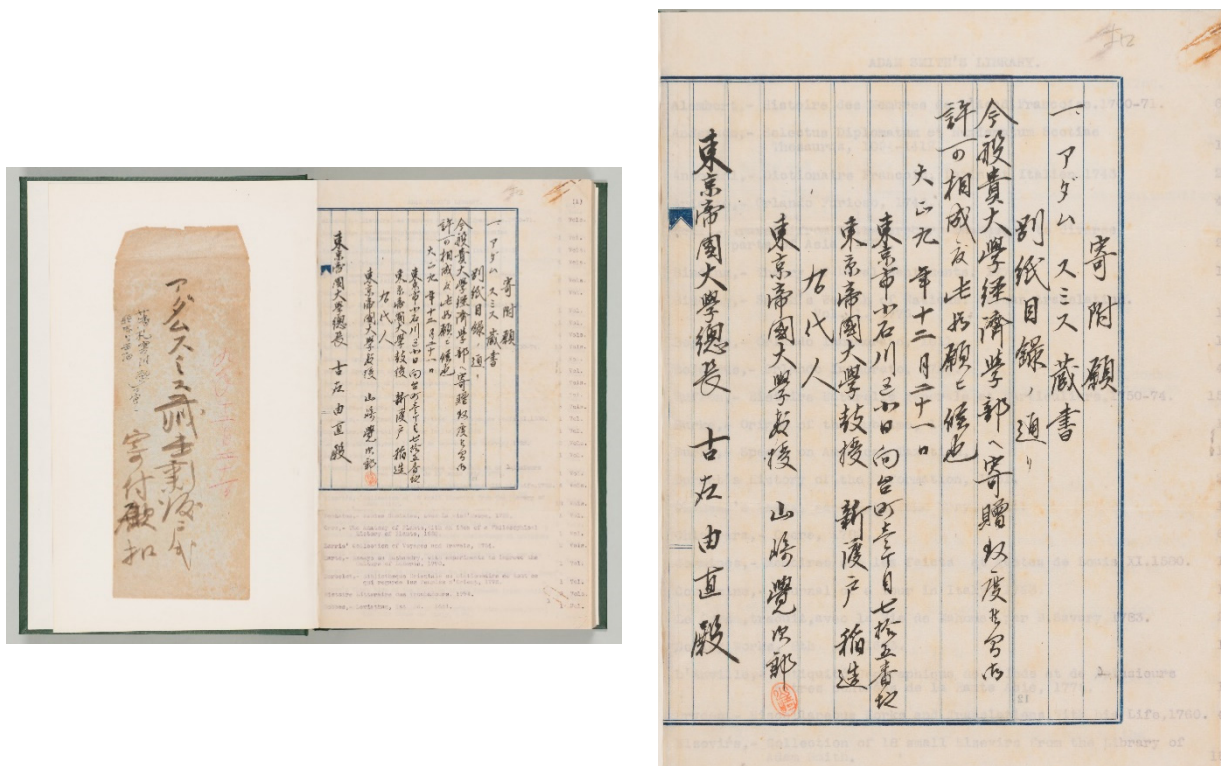
『アダム・スミスと啓蒙思想の系譜：水田文庫新収蔵記念』名古屋大学附属図書館 2010年秋季特別展 図録、2010年。

## (2) 海を渡ったスミス

スミスの思想は海を渡り、百年以上もの時を経て極東までたどり着いた。彼の旧蔵書は甥のデイヴィッド・ダグラスが相続し、その死後に二人の娘たちに譲られた。バナマン夫人相続分はエディンバラ大学に寄贈され、カニンガム夫人相続分は3系統に分かれて市場に出回り、本館所蔵分もこれに含まれる。

スミスの出版した書物はヨーロッパ系言語のみならずアジアの諸言語にも翻訳され、各国・各時代の思想的風土において新たな生命を得ることとなった。日本で『国富論』の初訳が刊行されたのは1883(明治16)年、中国では1902年であった。(福田)

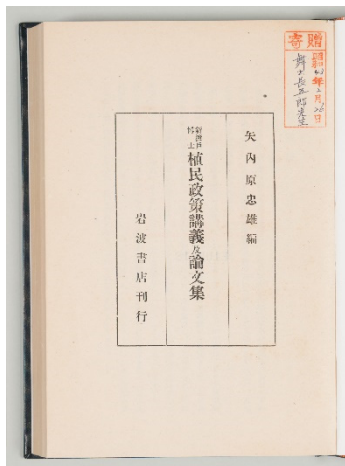
### 12 「アダム・スミス旧蔵書寄附願控」(東京帝国大学総長宛) 1920年。



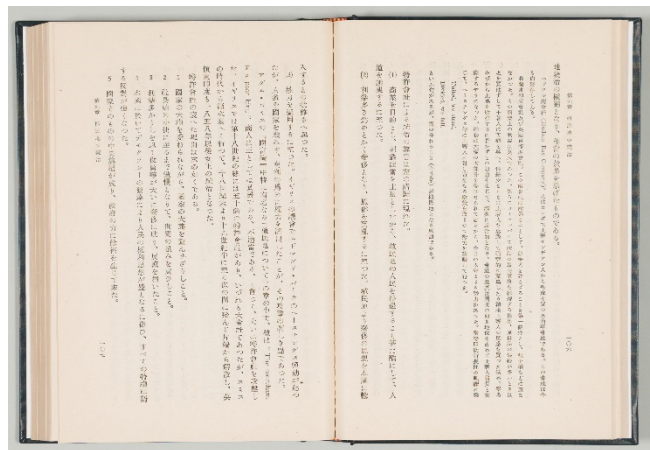
新渡戸稲造(1862-1933)は、国際連盟事務次長として渡欧した際、ロンドンの古書店でスミス旧蔵書131部303冊を購入して東京大学に寄贈した。展示品は、新渡戸稲造から東京帝国大学総長・古在由直に宛てたアダム・スミス旧蔵書の寄附願の控であり、封筒・別添目録とともに経済学部資料室に残されている。全体を展示するのは記録の限りでは今回が初めてである。

書類は渡欧中の新渡戸に代わり、同僚の山崎覚次郎が代筆している。新渡戸は1920年7月23日付の山崎宛書簡に「右を新設経済学部へ寄贈致度候<sup>いたしたくせうろう</sup>、就ては本日右書肆より直接貴学部宛書籍入六箱<sup>なされなくせうろう</sup>発送為<sup>いたさせせうろうあいだ</sup>致候間到着の上は何卒可然御取計ひ被成度候」と記し、前年に設置された東京大学経済学部へスミス旧蔵書を寄贈する意向を示すとともに、手続きについて山崎に一任している。(小島)

13 矢内原忠雄編『新渡戸博士植民政策講義及論文集』1943年。【24:404】



標題紙

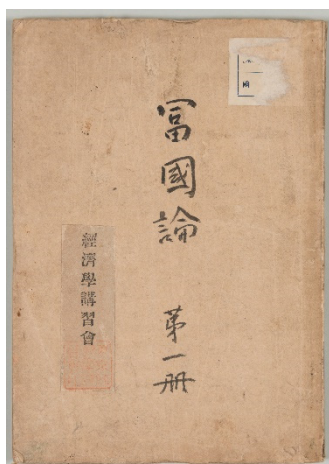


pp. 106-107.

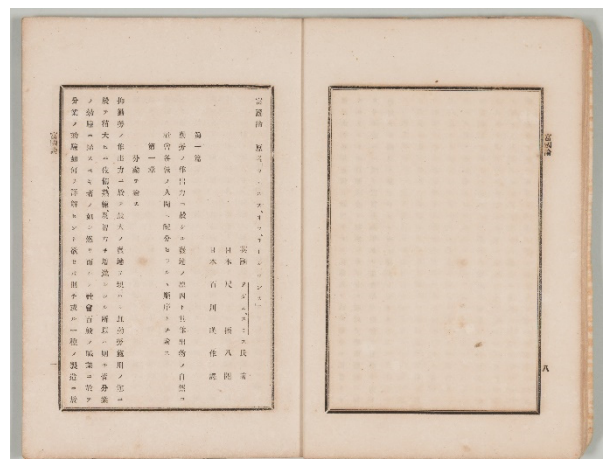
1909（明治 42）年東京帝国大学に植民政策講座が新設された際に、新渡戸稲造は担当教員を務めた。講義を受けた矢内原忠雄（1893-1961）は書籍化を構想して本人の許諾を得たが、新渡戸は本書の出版を待たず 1933 年に死去した。矢内原による講義ノート（1916-17 年度）を基幹に、高木八尺（1914-15 年度）および大内兵衛による講義ノート（1912-13 年度）を補って編集が行われた。

展示品は第 6 章「植民地の統治」。ここで新渡戸はスミス『国富論』第 4 編第 7 章「植民地について」を引用して講義を進めている。すなわち「彼〔スミス〕は“The merchant is a poor king.” 商人は王としては貧弱である、不適當である、と言って、大いに特許会社を攻撃した。」という部分である。展示品は本学部初代学部長の舞出長五郎旧蔵書。（福田）

14 石川暎作・嵯峨正作訳『富国論』1883-88年。【3-A:2380:1-12】



第 1 冊表紙



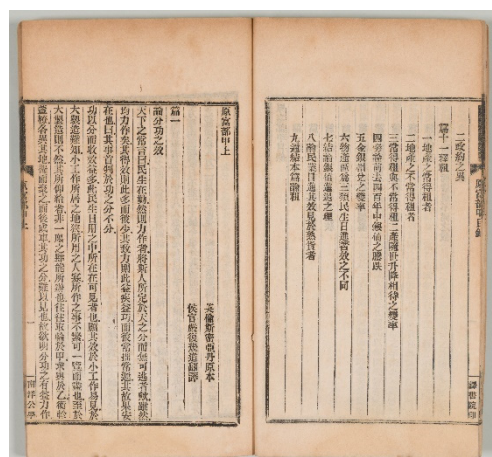
第 1 編冒頭

『国富論』の日本語初訳全 12 冊。大河内暎男旧蔵で、出版時の原装を保っており貴重である。翻訳事業は田口卯吉の主宰する「東京経済学講習会」が出版した『東京経済学講習会講義録』にその一部分が掲載されたことに始まる。慶應義塾出身で翻訳者の石川暎作（1858-86）は 1886 年に死去したため彼が手掛けたのは第 9 冊までで、残りの作業は嵯峨正作に引き継がれた。日本語翻訳版の標題は当初『富国論』とされたが、1921 年の竹内謙二訳から『国富論』に変化する。（福田）

15 嚴復訳『原富』1902年。【3:22】



第1冊巻頭標題部分 (スミスアダム原富)



第1冊第一章冒頭部分

清末の思想家で英国留学経験もある嚴復 (Yan Fu, 1854-1921) による『国富論』の中国語初訳、排印線装本 (鉛活字印刷の袋綴) 全8冊。展示品は、「明治四十四年後藤男爵寄贈」の朱印があるため、初代満鉄総裁や通信・外務などの大臣、東京市長などを歴任した後藤新平旧蔵と推定される。

嚴復はスミスのほか、ハクスリー、スペンサー、J.S.ミル、モンテスキューらの著作を翻訳し、思想的な側面から中国の近代化に貢献した。『国富論』の翻訳作業は1897年にはじまり、1901年1月末に脱稿、上海の南洋公学訳書院から順次出版され、1902年末には完売したという。展示品は、標題の前に清朝における海賊版排除の政策に従い、光緒29年6月26日 (1903年8月18日) 付の南洋公学訳書院の正規刊行物一覧が付されている。これらから考えると、本書は光緒28 (1902) 年の木版刊記 (奥付) を有する正規版ではあるものの、後刷の可能性も皆無ではない。(小島)

【参考文献】

大河内暁男「経済学部の独立と発展」経済学部部局史編集委員会編『東京大学百年史：部局史1 経済学部』東京大学経済学部、1986年。  
 大河内暁男『『富国論』解説』アダム・スミス原著、石川暎作・嵯峨正作訳『富国論』第3巻、雄松堂出版、1993年。  
 孫応祥『嚴復年譜』福建人民出版社、2003年。  
 永田圭介『嚴復：富国強兵に挑んだ清末思想家』東方書店、2011年。  
 水田洋『思想の国際転位：比較思想史的研究』名古屋大学出版会、2010年。  
 山崎覚次郎「アダム・スミス遺愛の図書：新渡戸稲造教授より寄贈せらる」『経友』2、1921年。

### (3) スミスが生きた時代： Hogarth のまなざし

本章では、スミスが生きた時代、その当時のイギリス社会がどのようなものであったのか、同時代を生きたウィリアム・ Hogarth (William Hogarth, 1697-1764) が描いた版画を通して見ていく。

Hogarth は、「イギリス絵画の父」と称されるように、18 世紀イギリスの画壇を代表する国民的画家であるが、特に彼の名や作品が庶民の間でも知られるようになったのは、イギリスの同時代の社会・日常生活に焦点を当て、そこから道徳的・教訓的テーマを見出した社会風刺版画によってである。実際に彼の版画は、「描かれた道徳 (pictured Morals)」と評された。Hogarth は、題材となる情報収集のために、頻りにコーヒーハウスに足を運び、そこに備えられている数種の新聞・雑誌の社会面を読み漁ったと言われている。

展示の版画は、スミス研究や、スミス旧蔵書の保存のために尽力した大河内一男 (東京大学元総長・名誉教授, 1905-84)・暁男 (東京大学名誉教授, 1932-2017) 両氏が親子 2 代にわたって収集し、2017 年度に東京大学経済学図書館に寄贈されたものである。本展示では、寄贈された全 71 点 (31 タイトル) から、スミスが生きた 18 世紀イギリスにおける教育・政治・宗教・社会を描いた版画 8 点を紹介する。

#### 16 *Gulielmus Hogarth* (Hogarth 自画像), 1748-49.

Hogarth は、自身の版画集のための口絵として、以前に描いていた油絵の自画像に基づいてこの版画を制作した。Gulielmus は、William のラテン語綴り。

絵の手前に描かれた犬は、Hogarth の愛犬ランプで、まるで絵の番をしているかのように座っている。

楕円形の絵の下にある 3 冊の書籍は、彼に影響を与えたとされる、シェイクスピア、ミルトン、スウィフトの作品とも考えられている。

その手前には、ビュラン (版画用の彫刻刀) とパレットが配置されている。パレットには、“The Line of Beauty” (美の線) の文字が書かれ、S 字状の針金が 1 本置かれている。この S 字線は、Hogarth が主張する美の基本形態を示している。



## 17 *Scholars at a lecture* (講義を聴く学生), 1736.

講義をするのは、オックスフォード大学の教授・ウィリアム・フィッシャーとされている。彼は教壇に立って、“Datur Vacuum” (余暇が与えられん) と題した講義ノートを読み上げている。その周りで学生たちは、無関心・懐疑的な態度を示したり、居眠りやあくびをしたりして、真面目に聴講していない。

この講義ノートに記された“Vacuum”には「余暇」の意味がある一方で、「真空」の意味もあり、大学の講義の退屈さと中身のなさ(真空)を風刺していることが読み取れる。

さらにホガースは、こうした大学のマンネリズムで退屈な講義に対する学生たちの露骨な反応もカリカチュア化しようとしたのである。



## 18 *The bench* (裁判官), 1758.

ウィッグを着けた4名の裁判官が、法廷に出ている様子を描いた一枚。中央の首席裁判官は、悪名高いジョン・ウィルズ卿で、ウィルズ卿から見て右隣の横を向いた人物がエドワード・クライヴ卿、ウィルズ卿から見て左隣の人物がヘンリー・バサースト、その肩にもたれて居眠りをしているのがウィリアム・ノエルである。

裁判官の上部には、レオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晩餐」に登場する使徒たちや、裁判官らの顔を誇張した戯画が描かれている。

法律家の怠慢さと無能さを風刺する作品であると同時に、この作品に「絵画における性格、戯画、誇張と言う言葉の相違について」という副題を付けて、この4名の裁判官の「性格」の描写を、その上部に描かれた「戯画」と「誇張」から区別しようとした。ホガースは、この版面を通じて、「性格」描写と「戯画」は混同されがちであるが、「戯画」は一種の線の「誇張」であり、本質的には全く異なるものであることを示したのである。



## 19 *The sleeping congregation* (居眠り会衆) , 1736.

高い説教壇から牧師が、「マタイによる福音書」の第11章28節「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。」をだらだらと読み上げている。それを受けてか、会衆の多くが「休んでいる」。右手前の娘は、「結婚について」の章を開けたまま居眠りをしている。その横の牧師は、娘の胸元をのぞいている。

このように退屈な説教、居眠りをする会衆、不謹慎な牧師や、説教壇の側壁に刻まれた「あなたがたのために苦勞したのは、無駄になったのではなかったかと、あなたがたのことが心配です。」

(「ガラテヤの信徒への手紙」第4章11節)の聖書の言葉、また左上部の「神と私の権限」の motto から意図的に「神」の文字が隠されていることなどから、当時のイギリスにおける信仰への不熱心さを Hogarth が皮肉っていることが分かる。



## 20 *Credulity, superstition and fanaticism: a medley* (盲信・迷信・狂信：信者の集まり) , 1762.

「宗教的熱狂を図解すれば」(*Enthusiasm delineated*, 1761年頃の作品)の改訂版。メソジスト派を辛辣に風刺した作品。

説教台で熱弁するのは、メソジスト派の指導者 ジョージ・ホイットフィールドとされる。ガウンの下に道化服を着ており、熱弁のあまり鬘が取れて、イエズス会士の剃髪が見えている。これは、当時の人々がメソジスト派とカトリックとを同一視する偏見があったことに由来する。信者の表情からも、狂信的な様子がうかがえる。窓の外では、イスラム教徒が集会の様子をのぞき込んでいる。女性のスカートの中からウサギが飛び出す様子は、医者を欺いてウサギを産んだと信じこませたメアリー・トフトの事件を揶揄したもの。

画題の下には、「どの霊も信じるのではなく、神から出た霊かどうかを確かめなさい。偽預言者が大勢世に出て来ているからです。」(「ヨハネの手紙一」第4章1節)とあり、こうした宗教的熱狂を危険視する Hogarth の姿勢がうかがえる。



## 21 *O the roast beef of Old England* (わがイングランドのロースト・ビーフ) , 1748-49.



別名「カレーの門」(*The Gate of Calais*)。1748年、ホガースは2度目のフランス旅行に出かけたが、ドーヴァー海峡を渡ってフランスのカレーに到着後、スパイ容疑で逮捕された。この版画は、その時の様子を題材に、イングランドを誇る一方で、フランスをはじめとする周辺地域を揶揄した作品である。ロースト・ビーフはイングランド人旅行者を賄う「カレーのグランサイヤー夫人」に届けられる最中で、通りがかりの肥えたフランス人の修道士がその肉に触れている。また飢餓に苦しむフランス兵らが、ロースト・ビーフを羨ましそうに見つめている。右手前では、スコットランド人の傷病兵が座り込んでいる。また作品内には、スケッチブックを持ったホガース自身と、彼を逮捕しようとその肩に触れる者の手も描かれている。

## 22 *Beer Street* (ビール街) , 1750-51.

この作品は、「ジン横丁」と一対で販売された。これら2作品からは、当時のイギリスの日常生活の明と暗とがはっきりと見えてくる。

舞台は、ロンドンのセント・マーティン・イン・ザ・フィールズ。時は国王ジョージ2世の誕生日の10月30日。この日を祝して人々がビールをがぶ飲みしている。楽しそうにビールを味わう肉屋と鍛冶屋の前にあるテーブルには、ジョージ2世が1748年に議会で行った演説を掲載した新聞が置かれている。そこには、イギリスの商業の繁栄と平和の推進が主張されている。中央の魚売りの女性達もビールを飲みながら、ホガースの友人である詩人ジョン・ロックマンの「ニシン漁に寄せる新バラッド」を読んでいる。当時のロックマンは、「自由なイギリス漁業」なる組織に雇われており、イギリスのニシン漁の重要性を唱えていた。





## 23 *Gin Lane* (ジン横丁) , 1750-51.

ジンによって困窮し、飢えた貧民層の様子を風刺した作品。舞台は、当時貧民の巣窟と言われたロンドンのスラム街・セント・ジャイルズ教区。

中央の階段には、泥酔して赤ん坊を落としてしまう母親の姿が、右側には、担架に乗せられた瀕死の患者にジンを飲ませる人や、乳児にジンを飲ませる女性、ジンで乾杯をする2人の少女が描かれている。ジン樽が並ぶ店の隣では、この家の主人がジンに溺れて首吊り自殺をはかっている。中央の広場奥では、ジン中毒で死亡した母親が埋葬され、その子供が傍らで横たわっている。こうした退廃的な様子は、繁栄を謳歌する様子を描いた「ビール街」とは対照的である。

この作品からは、当時成人の死亡者の80%が、ジン等の火酒の過飲者であったと言われるほど、アルコールによる害が深刻であったことが読み取れ、18世紀イギリスの暗部が浮き彫りとなる。



### 【参考文献】

大河内暁男解説『Hogarth 版画展図録：第4回経営シンポジウム』大東文化大学経営研究所、2005年。  
小林章夫、齊藤貴子『諷刺画で読む十八世紀イギリス：ホガースとその時代』朝日新聞出版、2011年。  
森洋子『ホガースの銅版画：英国の世相と諷刺』岩崎美術社、1981年。

(森脇)

特別展示「"Adam Smith in action": アダム・スミスの思想形成過程とその東アジアへの波及」展示資料一覧

展示番号	著者・作者	展示品タイトル	出版・作成年	所蔵者
1	Smith, Adam.	<i>A catalgue of book's, belonging to Adam Smith Esqr... 1781.</i>	1781	東京大学経済学図書館
2	Buffon, Georges Louis Leclerc, comte de & Louis-Jean-Marie Daubenton.	<i>Histoire naturelle, générale et particuliere, avec la description du Cabinet du Roi, nouvelle edition, tome sixieme.</i>	1766	東京大学経済学図書館
3	Harris, John & John Campbell.	<i>Navigantium atque itinerantium bibliotheca. or, a complete collection of voyages and travels. consisting of above six hundred of the most authentic writers . . . , vol. 1.</i>	1764	東京大学経済学図書館
4	Euclid.	<i>The elements of Euclid, viz. the first six books, together with the eleventh and twelfth . . .</i>	1781	東京大学経済学図書館
5	Vasari, Giorgio.	<i>Le vite de' più eccellenti pittori, scvltori et architetti, parte terza primo volume.</i>	1647	東京大学経済学図書館
6	Tasso, Torquato	<i>La Gierusalemme liberata, vol. 1 &amp; 2.</i>	1763	東京大学経済学図書館
7	Hobbes, Thomas.	<i>Leviathan, or the matter, forme, &amp; power of a common-wealth ecclesiasticall and civill.</i>	1651	東京大学経済学図書館
8	Hobbes, Thomas.	<i>Leviathan, or the matter, forme, &amp; power of a common-wealth ecclesiasticall and civill.</i>	1651	東京大学文学部社会学研究室
9	Hume, David.	<i>A treatise of human nature: being an attempt to introduce the experimental method of reasoning into moral subjects, vol. 1.</i>	1739	東京大学経済学図書館
10	Hume, David.	<i>Essays and treatises on several subjects, new edition, vol. 3.</i>	1770	東京大学経済学図書館
11	Cordiner, Charles & Þormóður Torfason (Thormodus Torfæus) .	<i>Antiquities &amp; scenery of the north of Scotland, in a series of letters to Thomas Pennant, Esqr.</i>	1780	東京大学経済学図書館

12	新渡戸稲造（山崎覚次郎代筆）	「アダム・スミス旧蔵書寄附願控」（東京帝国大学総長宛）	1920	東京大学経済学図書館
13	矢内原忠雄編	『新渡戸博士植民政策講義及論文集』	1943	東京大学経済学図書館
14	Smith, Adam.（石川暎作・嵯峨正作訳）	『富國論』全12冊	1883-1888	東京大学経済学図書館
15	Smith, Adam.（敵復訳）	『原富』全8冊	1902	東京大学経済学図書館
16	Hogarth, William.	<i>Gulielmus Hogarth</i> （ホガース自画像）	1748-1749	東京大学経済学図書館
17	Hogarth, William.	<i>Scholars at a lecture</i> （講義を聴く学生）	1736	東京大学経済学図書館
18	Hogarth, William.	<i>The bench</i> （裁判官）	1758	東京大学経済学図書館
19	Hogarth, William.	<i>The sleeping congregation</i> （居眠り会衆）	1736	東京大学経済学図書館
20	Hogarth, William.	<i>Credulity, superstition and fanaticism: a medley</i> （盲信・迷信・狂信：信者の集まり）	1762	東京大学経済学図書館
21	Hogarth, William.	<i>O the roast beef of Old England</i> （わがイングランドのロースト・ビーフ）	1748-1749	東京大学経済学図書館
22	Hogarth, William.	<i>Beer Street</i> （ビール街）	1750-1751	東京大学経済学図書館
23	Hogarth, William.	<i>Gin Lane</i> （ジン横丁）	1750-1751	東京大学経済学図書館



特別展示

## Adam Smith in action

アダム・スミスの思想形成過程とその東アジアへの波及

---

平成 30 (2018) 年 6 月 2 日 発行

編集 東京大学経済学部資料室

発行 東京大学経済学図書館